

### 聖霊を待つ(ヨハネ)

(使徒の働き1:6-11)

#### 一、聖霊の働きなる恵み

教会は神を、父・子・聖霊として信じています。父・子・聖霊という二つの位格を持たれたおひとりなる神という意味です。三位一体の教理は、イエスを神と信じるところから始まっています。最初にキリストの復活の証人となった弟子たちは、すなわち使徒たちは、イエスを、神が遣わされたメシア(キリスト)にして、神の子(神の代理者)、さらに神御自身と信じました。これは啓示によります。すなわち、覆われていた覆いを取り除かれて知らされたことです。

では、だれが覆いを取り除いたのでしょうか。神です。聖霊なる神です。ここに、聖霊の働きがあります。たとえば、エペソ人への手紙1章7節に書かれています。へどうか、私たちの主イエス・キリストの神、栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように。と。

神は常に、父・子・聖霊として働いておられます。主イエスは、おっしゃいました。「わたしを見た人は、父を見たのです」(ヨハネ14:9c)と。次のようにもおっしゃいました。「わたしがあなたに言ったことばは、自分から話し

ているではありません。わたしのうちにおられる父が、ご自分のわざを行っておられるのです」(ヨハネ14:10)と。では、主イエスを見れば父が分かることを知らせるのは、だれなのでしょう。うか。聖霊です。聖霊なる神です。「そしてわたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてください」

(ヨハネ14:16)と主イエスが言われた、聖霊です。もし、聖霊の働きがなかったら、私たちは神を知ることができません。「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」(ヨハネ3:16)という聖書の中心と言えることば聞いても、信じることができせん。

#### 二、聖霊により証人となる

6節をご覧ください。へそこで使徒たちは、一緒に集まったとき、イエスに尋ねた。「主よ。イスラエルのために国を再興してくださるのは、この時なのですか。」とあります。ここに、使徒たちが抱いていた願望が、キリストの復活を目撃したにもかかわらず、以前と変わっていなかったことを知ります。すなわち、メシアであるイエスが神の王国を建国して王となり、自分たちが重

要なポストに就くという願望です。主イエスが復活されたからには、いよいよ神の王国の再興が近いのか、と受け止めたようです。主は、次のようにおっしゃいました。7節です。へイエスは彼らに言われた。「いつとか、どんな時とかいうことは、あなたがたの知るところではありません。それは、父がご自分の権威をもって定めておられることとす。」と。さらに続けて語られました。8節です。へしかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」と。

主イエス・キリストが語られた意図は何だったのでしょうか。それは、神の王国が建国される前に――神の王国の建国は世の終わりの出来事ですが――使徒たちがキリストの証人として地の果てまで遣わされて行くことでした。

このことばが、復活の主イエス・キリストによる決別のことばとなりました。そうしますと、改めて1章8節のみことばの重みが伝わってまいります。聖霊が使徒たちに臨まれることにより、力を受けるといふことばです。その場合の力とは、キリストの証人となる力です。

#### 三、聖霊なる神にゆだねる

聖霊の働きは不思議です。すなわち、

神の働きは不思議です。神は一人ひとりを世に生み出しました。

子供が生まれてしばらくしますと、その子なりのものが出てまいります。子供は、親とは別人格です。当然です。子供は親の持ち物ではありません。当然です。さて、子供に授けられた特性ですが、親とは異なる特性を持っています。そしてすぐに親から独立して行きます。子供に授けられた特性は、生まれたままの状態では神から離れています。すなわち罪の中にありますから、良いかたちにはなり得ません。ですが神の作品であることに、変わりはありません。その、生まれながらの古き人は、どのようにして、本来のあるべき姿に回復して行くのでしょうか。それは、罪から救われることです。イエス・キリストを信じることで、罪から救われる道はありません。そのことを、聖書は語っています。

こうして使徒たちを始め、主イエス・キリストを信じる者は、変えられ、みどころになつたかたちで、一人ひとりの特性が生かされて行きました。神は、イエス・キリストにあって、私たちを新しい人に造り変えてくださいます。それは主ご自身のわざであり、神である聖霊のわざです。

この聖霊を、すなわち聖霊においてあらわれられている神を、常に待ち望んで行くことではありませんか。